

膀胱がん

【集学的治療の実施状況】

○泌尿器科

筋層非浸潤の表在性膀胱癌については内視鏡手術を行い、また、筋層浸潤性膀胱癌には開腹術、腹腔鏡下小切開手術による膀胱全摘手術（尿路変更は回腸導管、尿管皮膚瘻、自排尿可能な腸管利用新膀胱）を施行します。周囲臓器浸潤例の場合は、外科と合同で行います。

抗がん剤の膀胱内注入や全身投与、BCGの膀胱内注入療法も行っています。

放射線治療については、放射線科と泌尿器科の合同でリニアック照射を実施します。

○放射線科

画像診断と放射線治療を行います。

○栄養サポートチーム（NST）

医師、栄養士、看護師、薬剤師等が連携し、がんや治療の副作用による食欲低下、体重減少等に対するサポートを行っています。

○緩和ケアチーム

医師、認定看護師、認定薬剤師、管理栄養士、心理士、医療ソーシャルワーカーなどから構成されたチームが中心となり、患者の身体的苦痛や精神的苦痛の緩和に努めます。

《準じているガイドライン》

膀胱癌診療ガイドライン（日本泌尿器科学会）

がん疼痛の薬物療法に関するガイドライン（日本緩和医療学会）

苦痛緩和のための鎮静に関するガイドライン（日本緩和医療学会）

終末期癌患者に対する輸液療法のガイドライン（日本緩和医療学会）

がん患者の消化器症状の緩和に関するガイドライン（日本緩和医療学会）

がん患者の呼吸症状の緩和に関するガイドライン（日本緩和医療学会）

がん性痛に対するインターベンショナル治療ガイドライン（日本ペインクリニック学会）

神経障害性疼痛薬物療法ガイドライン（日本ペインクリニック学会）

在宅緩和ケアガイドブック（日本緩和医療学会）